

令和7年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター傷病記録等から)

※ビジターセンター未対応の傷病事故は含まれません



(R7.7.22 消防隊に協力して救助活動を行う)

令和7年度12月

公益財団法人 尾瀬保護財団

目 次

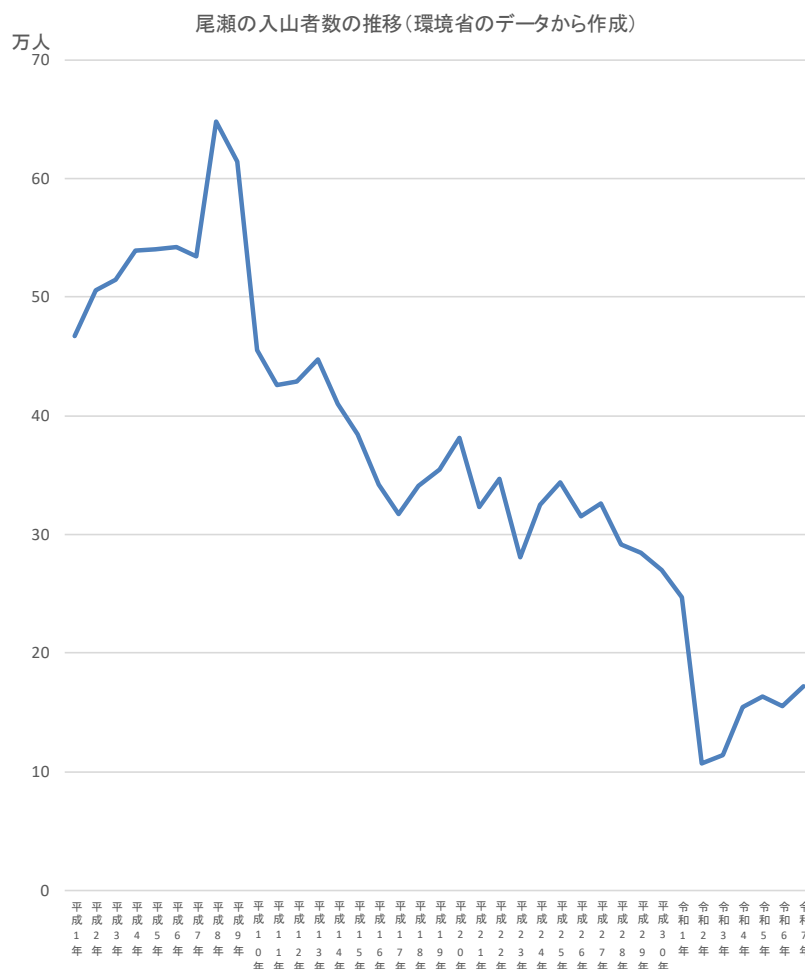
1	入山者数の状況.....	1
2	傷病事故の発生状況.....	1
	(1) 年度別発生状況.....	2
	(2) 地区別発生状況.....	3
	(3) 原因別発生状況.....	3
	(4) 時期別発生状況.....	4
	(5) 月別発生状況.....	4
	(6) 年齢別・男女別発生状況.....	4
	(7) 傷病者の居住地別発生状況.....	5
	(8) グループ人数別発生状況.....	5
	(9) 傷病事故の通報状況.....	6
3	救助活動.....	6
	(1) 救助出動状況.....	6
	(2) ヘリコプター要請状況.....	7

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月の大型連休後から10月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度は60万人台前半まで増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成10年度以降入山者数は減少し続け、平成23年には東日本大震災の影響もあり20万人台と大幅に減少した。その後、増減を繰り返しながら少しずつ減少していったが、令和2年のコロナウイルスの世界的蔓延によりさらに大幅減少した。その後回復傾向にあるが微増となっている。

入山者数の推移

年度	入山者数 (人)	対前年比
平成1年	467,090	
平成2年	505,840	108.3%
平成3年	515,090	101.8%
平成4年	539,790	104.8%
平成5年	540,264	100.1%
平成6年	542,058	100.3%
平成7年	534,196	98.5%
平成8年	647,523	121.2%
平成9年	614,317	94.9%
平成10年	455,409	74.1%
平成11年	425,807	93.5%
平成12年	428,446	100.6%
平成13年	448,041	104.6%
平成14年	409,942	91.5%
平成15年	384,251	93.7%
平成16年	341,558	88.9%
平成17年	317,847	93.1%
平成18年	341,369	107.4%
平成19年	354,901	104.0%
平成20年	381,700	107.6%
平成21年	322,800	84.6%
平成22年	347,000	107.5%
平成23年	281,300	81.1%
平成24年	324,900	115.5%
平成25年	344,200	105.9%
平成26年	315,400	91.6%
平成27年	326,100	103.4%
平成28年	291,860	89.5%
平成29年	284,390	97.4%
平成30年	269,700	94.8%
令和1年	247,700	91.8%
令和2年	106,922	43.2%
令和3年	113,795	106.4%
令和4年	154,724	136.0%
令和5年	163,499	105.7%
令和6年	155,630	95.2%
令和7年	171,821	110.4%



2 傷病事故の発生状況

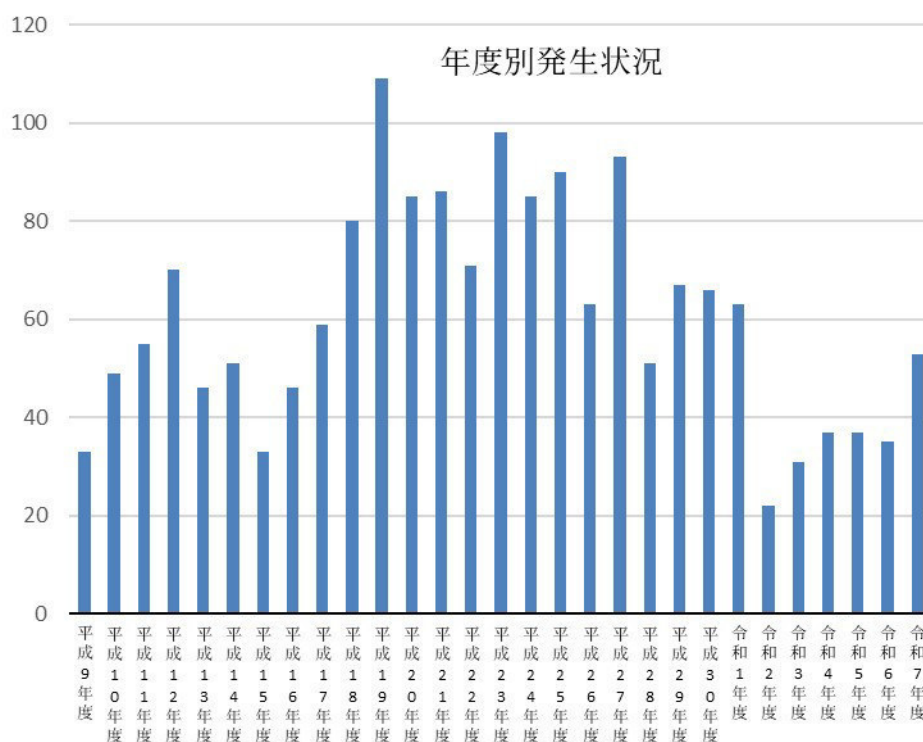
令和7年度に公益財団法人尾瀬保護財団(以下、当財団とする)が管理を受託した尾瀬山の鼻ビジターセンター(群馬県より管理受託)及び尾瀬沼ビジターセンター(環境省より管理受託)において、職員が対応を行ったものについて作成した。

(1) 年度別発生状況

令和7年度に当財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンター職員が対応した傷病事故は53件であった。

年度別発生状況

年度	区分 発生件数 (件)	傷病者内訳				
		死亡	病気	行方不明	負傷	その他
平成9年度	33	2			31	
平成10年度	49	4			45	
平成11年度	55	1			54	
平成12年度	70	2			68	
平成13年度	46				46	
平成14年度	51	2			49	
平成15年度	33	1			32	
平成16年度	46	1			45	
平成17年度	59				59	
平成18年度	80	3			77	
平成19年度	109	1			94	14
平成20年度	85	1			73	11
平成21年度	86	1			70	15
平成22年度	71				58	13
平成23年度	98		4		69	25
平成24年度	85	1	3	1	62	18
平成25年度	90				77	13
平成26年度	63				61	2
平成27年度	93		4		69	20
平成28年度	51		3		41	7
平成29年度	67	1	9	2	51	4
平成30年度	66	1	6		59	
令和1年度	63		5		58	
令和2年度	22	1			21	
令和3年度	31		1		27	3
令和4年度	37	1	5		28	3
令和5年度	37		2		34	1
令和6年度	35	1	2		30	2
令和7年度	53		6		46	1



(2) 地区別発生状況

地区別では鳩待峠～山ノ鼻間が一番多く発生し全体の 43.4%となった。全体の入山者数に比例して傷病も増減する傾向であるが、入山口の利用数にもこの傾向が当てはまると考えられる。

地区別傷病発生件数 (R7年5月～10月)

地区	発生件数 (件)	発生比率	傷病者内訳					(参考) 令和6年度
			死亡	病気	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻 (VC周辺含)	23	43.4%		2		20	1	17
尾瀬ヶ原 (研究見本園含)	14	26.4%		2		12		6
大江湿原～尾瀬沼北岸 (VC周辺含)	2	3.8%				2		1
三平下～大江湿原	2	3.8%				2		
三平下～尾瀬沼南岸								1
沼山峠～大江湿原	3	5.7%		1		2		2
大清水～尾瀬沼	1	1.9%				1		3
沼尻～見晴	4	7.5%				4		4
見晴～御池 (平滑ノ滝、三条ノ滝含)								
至 仏 山								
燧ヶ岳	3	5.7%				3		1
アヤメ平								
その他	1	1.9%		1				
不明								
合計	53	100%		6		46	1	35

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道・歩道での転倒・転落による事故が40件で、全体の75%と大半を占めている。原因は写真撮影や景色を眺めるなどよそ見による足の踏み外し、雨や雪などで滑ったことによる転倒等様々である。木道は、高架や段差・階段になっている場所もあり、ちょっとした気の緩みが命に関わる大事故にもつながりかねない。また、疲労などで歩行困難になる事例も見受けられるが、近年、熱中症に起因する場合も多く、ゆとりをもった行動と装備は不可欠であるとともに、自身の体力を過信しないことが重要である。

原因別発生状況 (R7年5月～10月)

原因	発生件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 令和6年度	
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山		搬送
木道上の転倒	35				29	6		24	
歩道上の転倒	5				4	1		1	
病気	2		2					1	
疲労・低体温	5		4		1			4	
落石									
道迷い									
雪崩・雪渓崩落								1	
落雷									
徒渉失敗(よそ見等)									
その他	6				5		1	3	
不明								1	
合計	53		6		39	7	1	35	

* 疲労・低体温：体調不良やふらつきなど * 自力下山か搬送かは救助隊出動の有無

(4) 時期別発生状況

秋は木道上で滑って転倒するケースが多いため、雨や霜、ぬれ落ち葉などで木道が滑りやすくなっている場合には、特に注意が必要である。また、夏の熱中症対策として水分補給と塩分の摂取が重要である。

時期別発生状況（R7年5月～10月）

時期	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 令和6年度	
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山		搬送
春(4・5・6月)	13		1		9	3		11	
夏(7・8月)	22		1		18	3		10	
秋(9・10・11月)	18		4		12	1	1	14	
計	53		6		39	7	1	35	

(5) 月別発生状況

月別では入山者が増える7月に多くなっている。

多くの転倒・転落負傷の原因と考えられるのは、よそ見や写真撮影、会話に夢中になりすぎた事や、無理な行程による疲労なども挙げられる。

月別発生状況（R7年5月～10月）

区分 月	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 令和6年度	
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山		搬送
4月									
5月	3				2	1		1	
6月	10		1		7	2		10	
7月	17		1		13	3		6	
8月	5				5			4	
9月	10		2		7		1	5	
10月	8		2		5	1		9	
11月									
合計	53		6		39	7	1	35	

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別では60代以上の傷病事故割合が半数以上と高く、男性より女性の比率が高い。この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。

年代別・性別発生状況

区分 年齢	発生 件数 (件)	令和7年					令和6年					
		男		女		男女計 (%)	男		女		男女計 (%)	
		(件数)	比率(%)	(件数)	比率(%)		(件数)	比率(%)	(件数)	比率(%)		
20歳未満	5	2		3								
20代	4	3		1				1				
30代	2	2	17.0%		20.8%	37.7%		11.4%	1	22.9%	34.3%	
40代	2	1		1			1		1			
50代	7	1		6			3		5			
60代	15	6	28.3%	9	34.0%	62.3%	1	22.9%	10	42.9%	65.7%	
70歳以上	18	9		9			7		5			
不明												
合計	53	24	45.3%	29	54.7%	100%	12	34.3%	23	65.7%	100%	
		53						35				

(7) 傷病者の居住地別発生状況

例年同様に、東京都を中心とした関東圏が大半を占めているが、外国からの入山者の傷病も増えてきている。尾瀬入山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前の準備が必要である。

都道府県別		傷病者内訳						合計	(参考) 令和6年度		
都道府県	区分	死亡	病気	行方不明	負傷		その他				
					自力下山	搬送	自力下山			搬送	
					岩手県					1	
宮城県										1	
秋田県					1					1	
茨城県					1					1	3
栃木県					1					1	
群馬県											1
埼玉県					7	1				8	6
千葉県					6					6	2
東京都			3		9	3	1			16	5
神奈川県					4					4	3
新潟県						1				1	1
長野県											2
静岡県					1					1	
愛知県											1
京都府						1				1	
大阪府											2
広島県						1				1	1
福岡県											1
鹿児島県											1
海外					3					3	
不明			3		5					8	5
合計			6		39	7	1			53	35

(8) グループ人数別発生状況

前年度と同様、本年度もグループの事故発生率が高い結果となった。ツアーについては、ガイドによる安全管理ができていないツアーもあるが、ガイドも添乗もないツアーもあり、安全管理に課題もある。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、同行者であることが多いが、重度の傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

形態	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						比率 (%)	(参考) 令和6年度	
			死亡	病気	行方不明	負傷		その他			
						自力下山	搬送	自力下山			搬送
単独		10		1		7	2			18.9%	8
グループ		38		3		29	5	1		71.7%	25
ツアー		2		1		1				3.8%	2
学校		2		1		1				3.8%	
不明		1				1				1.9%	
合計		53		6		39	7	1		100%	35

* グループ：同行者が1名以上の場合

(9) 傷病事故の通報状況

今年度の通報は、傷病者本人または同行者がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。尾瀬では、携帯電話の通話エリア圏外の場合、最寄りの有人施設に駆け込む必要があり、そこからビジターセンターへ連絡が入ることもある。近年、携帯電話のエリア内であった場合、当事者が直接救急要請する事例が多い。

通報方法	区分	通報者					合計	比率 (%)	(参考) 令和6年度
		本人	同行者	他人	山小屋	その他			
口頭		22	22	4	5		53	100%	91%
携帯電話									6%
電話									
無線									3%
その他									
合計		22	22	4	5		53	100%	100%
比率		42%	42%	8%	9%		100%		

3 救助活動

(1) 救助出動状況

ビジターセンター職員は救助隊の緊急要員としても出動している。

傷病者対応時の出動状況

年度	出動区分	消防警備隊 (件)	救助隊 (件)	ビジターセンター (人)	一般 (人)	発生件数 (件)
平成 17 年度		16	12	35		59
平成 18 年度		17	22	77		80
平成 19 年度		10	18	106	2	109
平成 20 年度		15	12	68		85
平成 21 年度		16	18	86	1	86
平成 22 年度		21	22	69		71
平成 23 年度		15	15	98		98
平成 24 年度		16	19	85		85
平成 25 年度		7	16	87		90
平成 26 年度		12	12	63		63
平成 27 年度		19	24	68	1	93
平成 28 年度		9	8	39		51
平成 29 年度		24	9	58		67
平成 30 年度		11	8	61		66
令和 1 年		14	6	63		63
令和 2 年		3		21		22
令和 3 年		4		38		31
令和 4 年		6	6	62		37
令和 5 年		12	2	60		37
令和 6 年		14	4	-		35
令和 7 年		7	8	70		53

*消防：防災ヘリを要請した件数(担架搬送も含める)

*救助隊：近隣の関係者が出動した人工

*ビジターセンター：職員が関与した人工

H27年度までの救助隊の数は救急車の要請

(2) ヘリコプター要請状況

今年度のヘリコプター搬送は7件だった。

防災ヘリコプター搬送状況

出動区分 年度	依頼 件数	負傷者 救助	病人等 救助	行方不 明捜索	遺体 収容	収容人 数計
平成10年度	3	3				3
平成11年度	5	5				5
平成12年度	7	5	1	1		7
平成13年度	6	6				6
平成14年度	6	4	1	1		6
平成15年度	6	4	1			5
平成16年度	7	7				7
平成17年度	12	8	4			12
平成18年度	8	3	3		2	8
平成19年度	11	6	4			10
平成20年度	13	10	3			13
平成21年度	9	7	2			9
平成22年度	17	14	3			17
平成23年度	14	10	4			14
平成24年度	15	11	2	1	1	15
平成25年度	7	7				7
平成26年度	9	8	1			9
平成27年度	19	14	5			19
平成28年度	5	4	1			5
平成29年度	13	7	5		1	13
平成30年度	11	5	6			11
令和元年	6	6				6
令和2年	-	-	-	-	-	
令和3年	4	4				4
令和4年	6	6				6
令和5年	12	7	2			9
令和6年	9	8	1			9
令和7年	7	7				7

※尾瀬山の鼻V C、尾瀬沼V Cで対応した件数